

韓国における感情的分極化と投票参加

2022年度 日本政治学会総会・研究大会 「政治的分極化の比較分析」

磯崎典世¹・宋財沄²

¹学習院大学 ²関西大学

2022年 10月 1日@龍谷大学

問題設定

背景

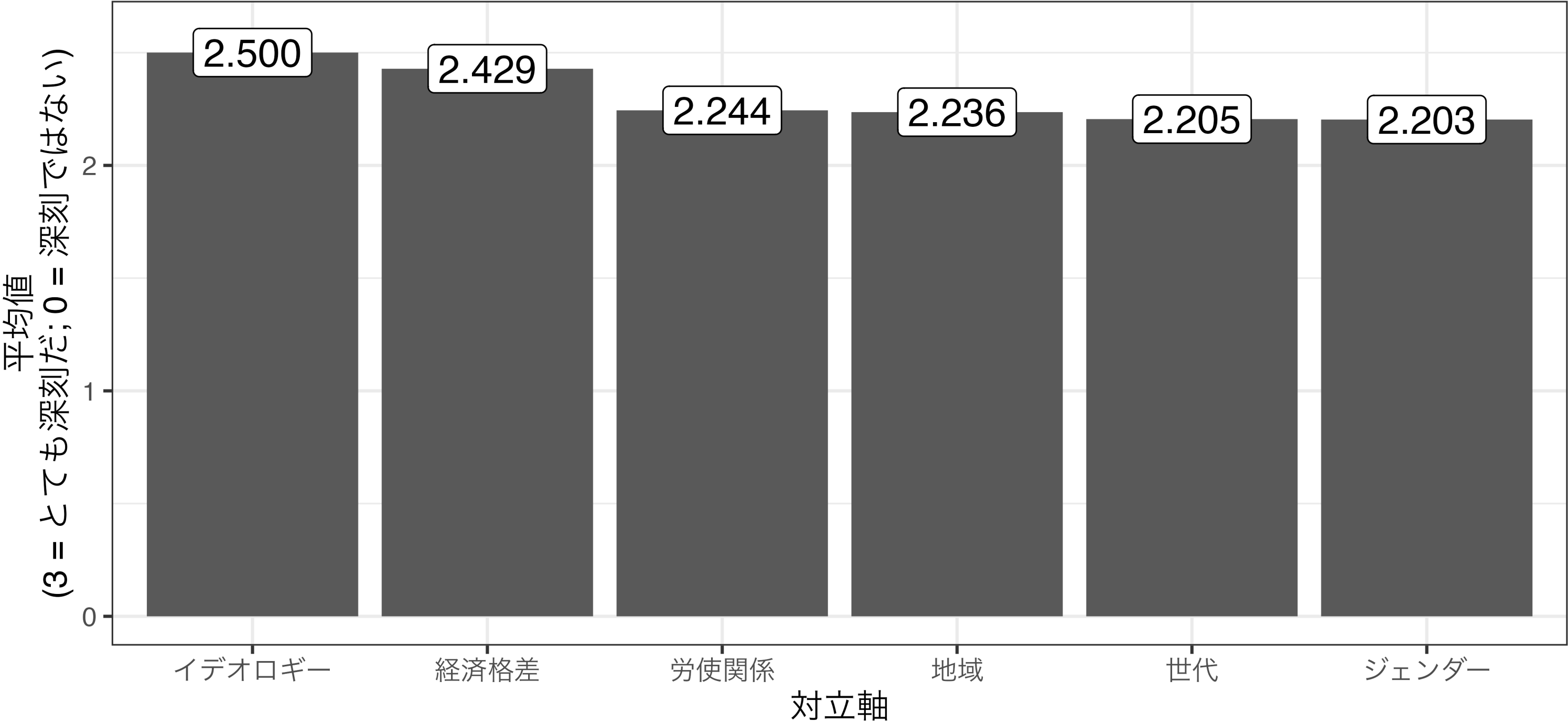
- **政治的分極化による民主主義の機能不全**（Hacker and Pierson 2005）
- 政治的分極化を拡大させる要因として**感情的分極化**（Iyengar et al. 2019; Orhan 2021など）
 - 個人が愛着を持つ政治集団（内集団）と、それに反対する政治集団（外集団）
 - 内集団を肯定し、外集団には敵意を向ける。
- 以上の議論は主に政党組織/システムが安定した欧米が対象
 - **民主主義の歴史が比較的浅い新興民主主義国家において、社会の対立が政治領域の分極化に繋がるのか。選挙過程での分極化の進展に着目**
 - 新興民主主義国家でありながら、比較的安定した選挙が行われている韓国を対象とした分析

韓国における感情的分極化

- 地域対立からイデオロギー、世代、ジェンダー、社会階層間対立へ（地域対立も残存）
- ローソク革命（朴槿恵弾劾）による保革勢力の大衆動員から対立の激化（鄭ドンジュン 2018）
 - 感情的分極化 \propto 党派性、イデオロギー、争点選好の強度（金ギドン・李ジェムク 2021）
 - 感情的分極化が非政治的領域（結婚など）へ与える影響（張スンジン・張ハニル 2020）
 - \Rightarrow 政治的領域（民主主義そのもの）への効果は？
- 政治勢力（政党/有力政治家）に対する感情的分極化とその支持者に対する感情的分極化
 - \Rightarrow 非エリートへの感情的分極化が、選挙過程にいかに増幅して、どんな効果をもたらすのか？

韓国における対立軸

- 回答者が認識する韓国の対立（第2波調査）



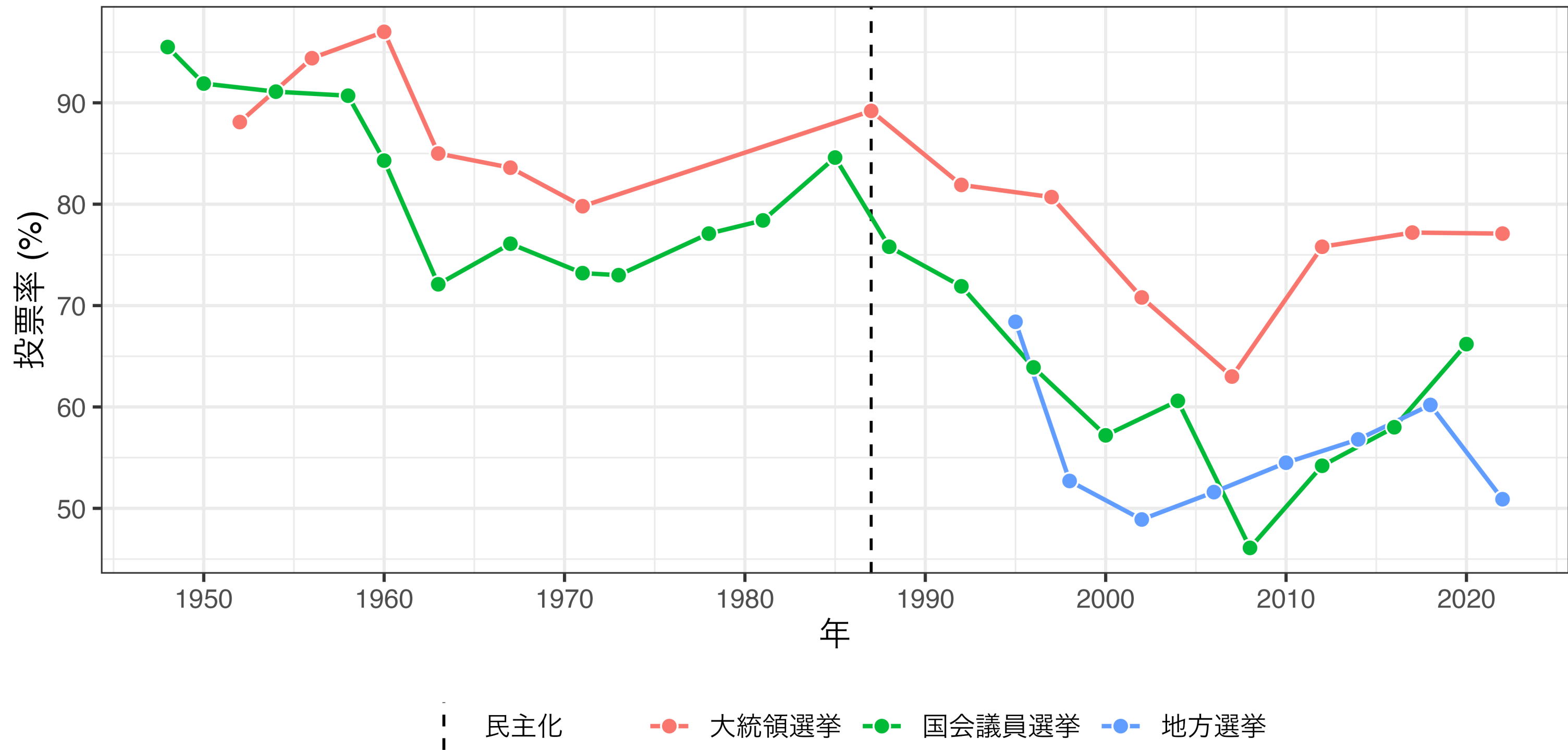
仮説

- 内集団の候補者が当選することによって高い効用を獲得し、外集団の候補者が当選することによって低い効用を獲得
- 感情的分極化の程度が大きい有権者の場合
 - 効用の差（expected party differential）が拡大 \Rightarrow 選挙を「高い賞金を巡る競争（high stakes competition）」と認識（Ward and Tavits 2019）
 - 合理的有権者の投票参加モデル（Riker and Ordeshook 1968）における B 項に相当
 - $\Rightarrow B$ は投票参加と正の関係
- **仮説:** 感情的分極化の程度が大きい有権者ほど、投票に参加する傾向がある。

なぜ韓国か

- **一次的選挙**（first-order election）：政権選択に関わる選挙（Reif and Schmitt 1980）
 - 韓国の大統領選挙; 注目度が高く、そもそも投票率が高い
- **二次的選挙**（second-order election）：一次的選挙以外の選挙
 - 韓国の国会議員選挙、地方選挙
 - 中でも地方選挙は**注目度が低く**、比較的、真空状態に近い状況（三次的選挙?）
 - 地方選挙における高い政党の組織化率（拘束名簿式比例代表の存在; 地方選挙と国政のリンクの強さなど）

韓国の投票率の推移



分析方法

データ

- Dynata社にパネル登録した18歳以上の韓国人
 - 割付は行われず、国勢調査に基づき、分析の際、事後補正（性別・世代・地域）
- 調査期間
 - 第1波：2022年5月25日～31日
 - 第2波：2022年6月2日～6日
- サンプルサイズ
 - 第1波：2,009名
 - 第2波：1,002名（全員、第1波回答済み）
- 調査方式：インターネット（Qualtrics）

感情的分極化の測定

- 感情温度を使用した感情的分極化の操作化
 - 感情温度は**主要3政党、主要3候補者、主要3政党の支持者、主要3候補者の支持者**に対する感情温度に対して測定し、4種類の感情的分極化指標が得られる。
 - スライドでは、説明変数として「**主要3政党に対する感情的分極化**」を使用
 - 主要3候補者（政党）：李在明（共に民主党; 中道革新）、尹錫悦（国民の力; 中道保守）、沈相奭（正義党; 革新）
- 感情的分極化の操作化: Wagner (2021)

$$AP_i = \sqrt{\sum_{j=1, j \neq q_i}^3 v_j (x_{ij} - x_{iq_i})^2}.$$

- i : 回答者 / j : 政党（の支持者）、候補者（の支持者）
- AP_i : 感情的分極化の度合い ($0 \leq AP_i \leq 100$)
- v_j : 2022年大統領選挙における主要3候補者の得票率
- x_{ij} : j に対する i の感情温度
- q_i : 最も好む j

モデル (1)

- **応答変数1**：投票参加の意向（第1波で測定; $\text{Intention}_i \in \{1, 2, 3\}$ ）
 - 線形回帰分析
- **応答変数2**：投票参加（第2波で測定;）
 - ロジスティック回帰分析

モデル (2)

- **説明変数**：感情的分極化
 - 政党、政党の支持者、候補者、候補者の支持者に対する感情温度の基づいて操作化された計4種類（メインの結果は政党に対する感情的分極化）
 - 計8モデル（2つの応答変数 4つの説明変数）
- **その他共変量**：性別、年齢、最終学歴、世帯収入、出身地域、居住地域、政治関心、内的政治的有効性感覚、外的政治的有効性感覚、保革自己認識
- 2015年国勢調査の性別・世代・地域に基づき、重み付け
 - 党派性、投票有無、重みなしでも（ほぼ）同じ結果
 - 推定結果の詳細は[online appendix](#)を参照

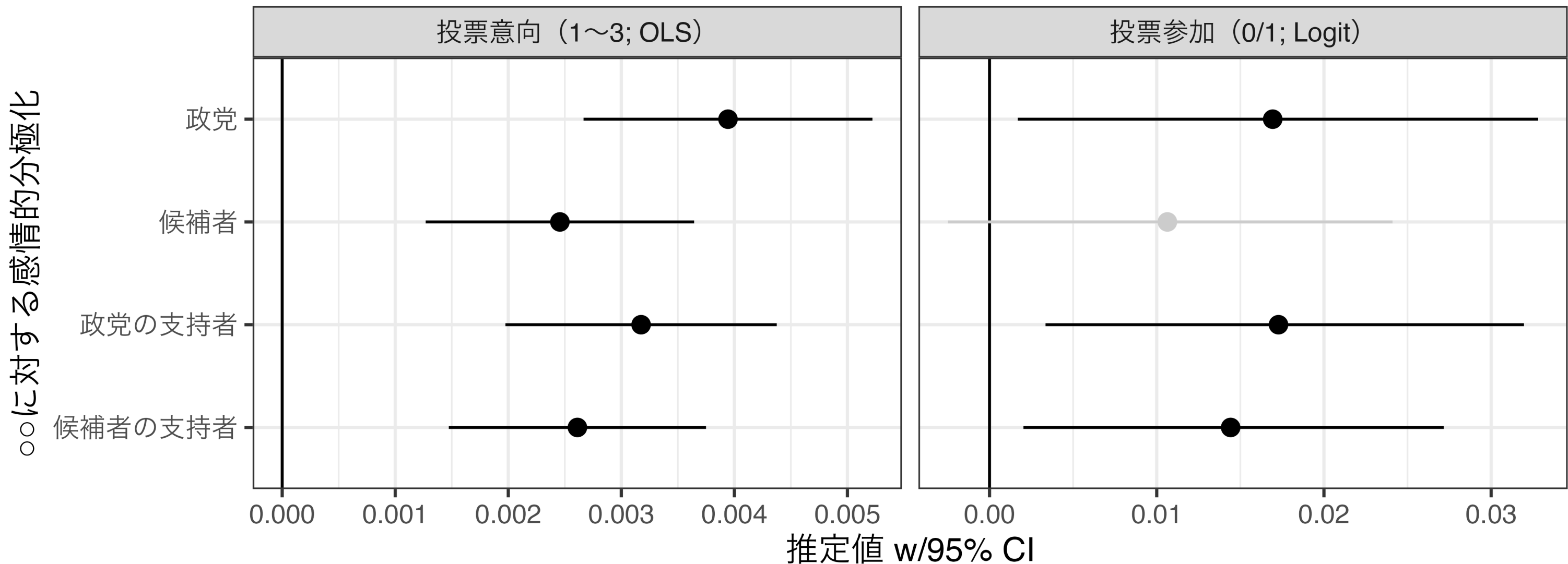
分析結果

推定結果

- 一つのモデルを除き、本研究の仮説を支持
 - 感情的分極化の拡大 投票参加

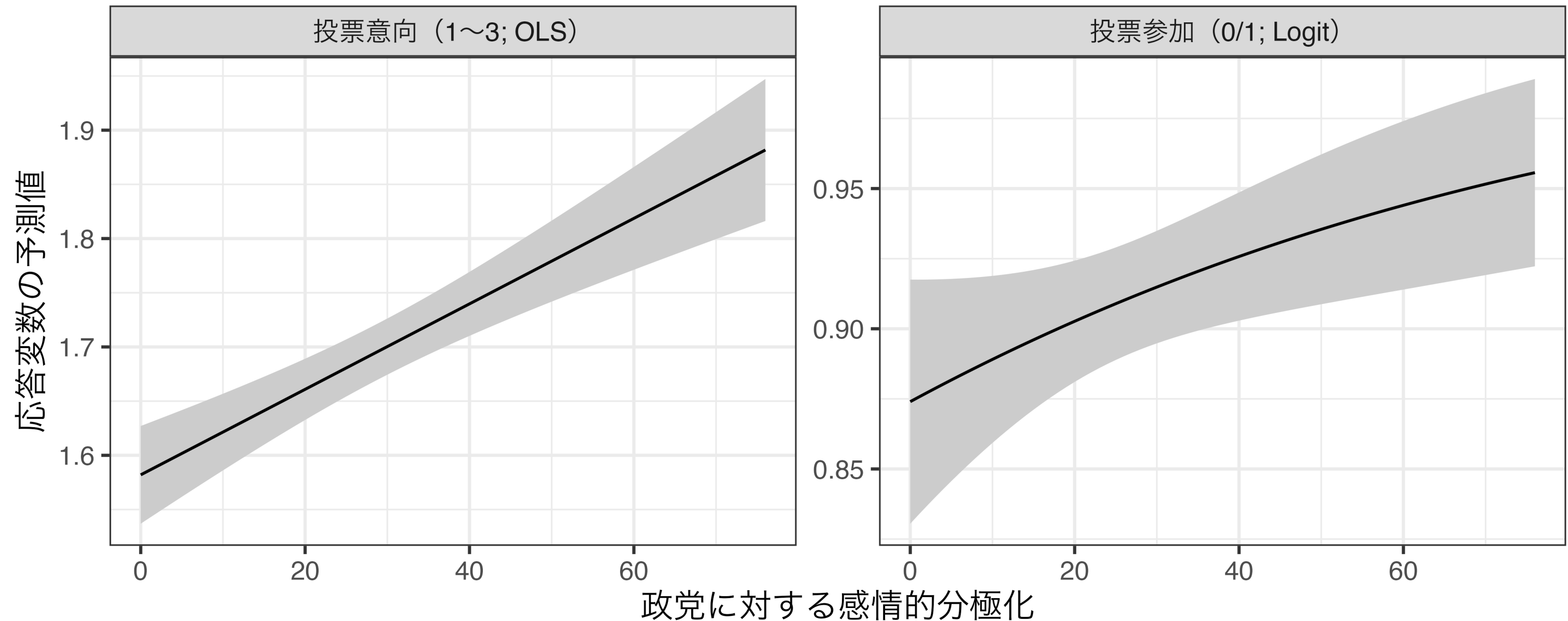
図

表



予測値

- 政党に対する感情的分極化が最小値から最大値へ変化した場合...
 - 投票意向: 約0.3 / 投票参加: 約8.2%p



効果量

- 投票意向：約0.4～0.5SD分 / 投票参加：約0.2～0.3SD分

	最小値	最大値	差分	効果量
投票意向 (SD = 0.565)				
政党	1.582	1.882	0.300	0.532
候補者	1.610	1.851	0.241	0.427
政党の支持者	1.606	1.914	0.309	0.547
候補者の支持者	1.608	1.864	0.256	0.454
投票参加 (SD = 0.308)				
政党	0.874	0.956	0.082	0.265
候補者	0.882	0.950	0.068	0.220
政党の支持者	0.871	0.965	0.094	0.306
候補者の支持者	0.869	0.949	0.080	0.261

注: 標準偏差は性別・年齢・地域で重み付け

おわりに

- **結論:** 感情的分極化は投票参加を促す（効果量は約0.25SD分）
 - これまで注目されてきた政党に対する感情的分極化だけでなく、候補者やその支持者への感情的分極化についても同様（[online appendix](#)参照）
 - 「政治に対する感情」よりも「政党の支持者に対する感情」の方が効果量が多い
- **含意**
 - 高い投票率が望ましいのであれば、感情的分極化は民主主義にとって良い現象か
 - 感情的分極化が進んでいる有権者が過剰代表される可能性
 - （政党・候補者が応答的であれば）対立の再生産へ
 - 感情的分極化と民主主義の質の低下（Harteveld and Wagner 2022） Brookman et al. (2022)
- **課題**
 - 国政選挙（大統領、国会議員）選挙における感情的分極化の役割
 - 選挙区レベルの競合の度合い（地域主義による、無投票当選や低投票率）
 - 支持者ではなく、「20代男性」、「改革志向の女性」のような集団に対する感情的分極化